

いのちの教育

とやまの子どもたちにいのちの輝きを

一人ひとりが
よりよく
生きようとする
姿を願って

「いのちってすばらしい!」と

実感するのがいのちの学び



富山県教育委員会

健やかな心と 体の育成

いのちの教育は、特別な教育ではありません。
日々の様々な授業の中で、子どもたちや教師
などが、「いのち」を意識し感じる、一瞬一瞬
を積み上げていくためのものです。

学校、家庭、地域が一体となった、一人ひとりの子どもたちが
生まれてよかったと実感できる「いのちの教育」の推進

「元気とやま創造計画」より

私の中のいのちを見つめて 二つとないいのち

自分なりのよさや可能性を自覚
夢や目標に向かう大切さを自覚
自分のいのちは自分で守る智慧の習得と実践

「できた」「わかった」「やり遂げた」という体験

読書や表現活動に浸る体験

自然の不思議さや美しさなどを感じ味わう体験

いのちを 見つめる 窓口の例

私と周囲のいのちとの つながりを見つめて つながり合ういのち

限りないいのちを受け継いでいることを実感
多くの人たちや恵みに支えられている喜びを実感
誰かのために時間を使うことの喜びを実感

ほめられたり認められたりする喜びや、それを与える体験

仲間との連帯感や感動を共有する体験

いのちの誕生にふれる体験

いのちそのものを見つめて 限りあるいのち

いのちの大切さを実感
様々ないのちの生かし方との出会い

身近な人や動物などの死と出会う体験

様々な障害を乗り越え、夢をもって生きる人との出会い体験

人・自然・社会の中で 「いのち輝く人間」を育てるために…

めあて

- 児童生徒が自分の中のよさや可能性に気づき、他とのつながりを実感する。
- 教員自身が自分のいのちと向き合い、自分の生き方を自分自身に問いかける。
- 学校と家庭、地域が確かな信頼関係を築き、連携しつつ共に学ぶ姿勢をもって取り組む。

指導のポイント

✓ 認め励まし合う機会をふやす

自分自身をかけがえのない大切な存在だと思える自尊感情を育む。

具体例

- 様々な機会や方法で、成就感・達成感や周囲からの愛情などを実感させる。
- 自分自身を認め励ます「もう一人の自分」を育てる。

子どもたちに期待する言葉(例)



! 留意点

独りよがりにならないように自省自戒の習慣を身につけることが必要。

✓ 喜びや悲しみなどの感情を仲間と共有する機会を設ける

かけがえのないいのちの尊厳を実感できる豊かな感性や想像力を育む。

具体例

- 自然とふれあう体験活動、人とのつながりを実感できる社会体験活動、誕生・成長などの喜びにふれる体験、老いや死の悲しみにふれる体験など、体験活動を充実する。

子どもたちに期待する言葉(例)



! 留意点

様々な思いや感情を、自分一人ではなく仲間と共有し、一人で抱えこまないことが必要。

✓ いのちを守るための知恵と態度を身に付けさせる

いのちをおびやかす行為や情報に対して、未然に防いだり、被害を最小限にいとめる知恵を習得させる。

具体例

- 具体的な場面を想定し、身の守り方を繰り返し指導する。
- 望ましい生活態度やバランスの取れた食習慣の大切さを指導する。

子どもたちに期待する言葉(例)

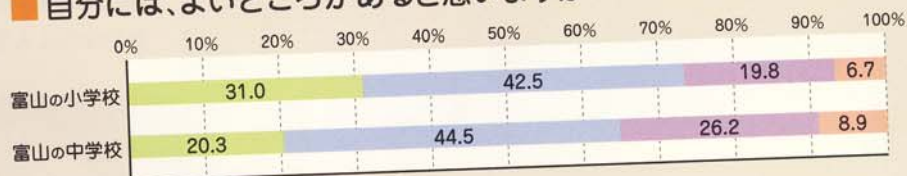


! 留意点

知らずに周囲を傷つける場合についても、具体的な場面を想定した指導が必要。

平成19年度
全国学力・
学習状況
調査の結果
— 自尊意識 —

■ 自分には、よいところがあると思いますか



■ 将来の夢や目標を持っていますか



発達段階に応じた指導

人や自然、社会とかかわる体験を通して、
自他のいのちがかけがえのないものであることを実感する

すべてのいのちに対する畏敬の念

社会の中での自己の確かな存在価値

支えられていることへの認識と感謝の念

人・自然・社会などに貢献する喜びや達成感



ステージ
3

ステージ3

- いのちや老い、死を見つめることを通して、喜びや悲しみ
にふれる体験の機会を設けるように配慮する。
- 喜びや悲しさなどの感情を仲間と共有するように配慮する。
- 人間のいのちだけでなく、いのちがつながり合う自然環
境などへの認識を深めるように配慮する。
- 自己を見つめ見直すことで、自己の有能感や有用感を
高めるように配慮する。
- 与えられたいのちを精一杯生かしていくことの大切さに
気づかせるように配慮する。



ステージ
2

ステージ2

- 動植物や自分の成長ぶりを生きている喜びとし
て感じるよう配慮する。
- 生きる喜びや死の悲しみなどにふれる体験から、
限りある自他のいのちの尊さを実感するよう配
慮する。



ステージ
1

ステージ1

- 自然、家族、動植物などと、五感を通してふれ
あう体験を充実させ、生きている喜びを十分
に味わわせる。
- 身近な生活の中から、いのちあるものの存在
に気づかせる。

自他の中の
よさや可能性を自覚

人・自然・社会などの
つながりを実感

生きている
実感と喜び